



ご寄附のお願い

本学の活動にご理解をいただき、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

■寄附の目的

寄附金は次の目的に活用させていただきます。

- 1 教育及び研究の支援
- 2 学生の支援
- 3 国際交流の支援
- 4 地域貢献の支援
- 5 その他大学活動の支援

■寄附金額

おいくらからでも結構です。

※金額の目安【個人】5千円【法人・団体】5万円

■活用実績 寄附金は寄附の目的に沿って、より充実した大学活動の実施のため、多岐にわたる分野で活用させていただいております。

2025年度の主な寄附金事業

●物価高に対する食の支援事業

学生が無料で昼食を食べることができる食券を配布しました。

●カウンセリング相談室の整備

保健センターにあるカウンセリング相談室に専門書を配架しました。

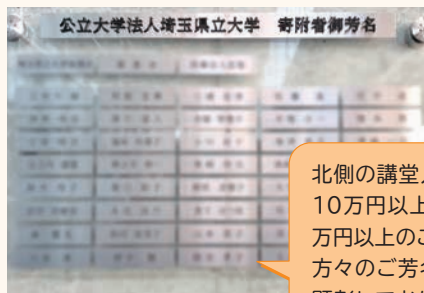
●学生の地域活動支援

学生の地域活動に当たって必要な交通費などの支援を行いました。
例として「開放特許を活用した学生アイデア発表会 in 埼玉」の様子を公開していますので、ご覧ください。
(<https://www.spu.ac.jp/news/tabid1089.html?itemid=2657&dispmid=3497>)



●生理用品の設置(2026年度以降も継続) 学内のトイレに生理用品を設置しました。

このほかにも様々な寄附金事業を実施しております。



北側の講堂入り口には、個人で10万円以上、法人・団体で50万円以上のご寄附をいただいた方々のご芳名を銘板に掲出し、顕彰しております。ご来学の際はぜひご覧ください！



物価高に対する食の支援事業



カウンセリング相談室の整備



学生の地域活動の支援

■お申込み・お支払い方法

① インターネットによるお申込み

二次元コードの読み込み、または <https://www.spu.ac.jp/donation/> にアクセス
(クレジットカード決済、コンビニ支払い、ネットバンキング(Pay-easy) 決済が可能です。)

② インターネット以外のお申込み方法

事務局 財務担当までお問い合わせください。
TEL:048-973-4110 E-mail:zaimu@spu.ac.jp

※寄附金としていただくことができるお金は、本学の教育研究上支障がないと認められたもの(利害関係が生じないもの)です。

お申込み・詳細は
ホームページから



<https://www.spu.ac.jp/donation>

「寄附者の顕彰等」、
「税制上の優遇措置」があります。
※詳細はホームページでご確認ください。

アンケートご協力をお願い

広報紙をお読みになったご意見・ご感想や本学への
メッセージをお寄せください。
今後の広報紙制作の参考にさせていただきます。
<https://www.spu.ac.jp/about/magazine/>



埼玉県立大学広報紙

つなぐ～県大の輪～

Vol.6 (2026年9月発行)

企画編集・発行
お問合わせ先

2026年度埼玉県立大学広報紙編集チーム
埼玉県立大学 事務局 企画・情報担当
〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820
TEL 048-973-4715 FAX 048-973-4807
URL <https://www.spu.ac.jp/>

Contents

02 国際交流のいま

04 卒業生・修了生の活躍

08 懐かしの先生からのメッセージ

09 県大生のいま

10 ひらかれた学びの場／理事長コラム

11 同窓会からのお知らせ／卒業生向けの支援

人とつながる、人を育てる。

埼玉県立大学
SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

公式Instagram
開設しました！

<https://www.instagram.com/spu.koho/>



国際交流 いま



本学では2004年度からこれまで500名を超える
留学生の受け入れや送り出しを行ってきました。

主な海外協定校との交流について、
これまでの歩みを紹介します。

2004年	クイーンズランド大学付属英語学校における語学研修を開始
2014年	クイーンズランド大学付属英語学校と協定を締結 ～本学独自の留学プログラムを開始～
2014年	チューリッヒアプライドサイエンス大学と 学術交流における覚書を締結・留学生送り出し開始
2015年	チューリッヒアプライドサイエンス大学からの留学生受け入れ開始
2018年 ～2023年	コロナ禍等により一時中断
2024年	組織名称の変更に伴いクイーンズランド大学UQカレッジと 協定再締結 ～留学プログラム再開～



「国際交流の再始動」

本学の国際交流は、コロナ禍以降一時的に中断していましたが、ようやく再開の段階を迎えました。現在は、協定校であるオーストラリアのクイーンズランド大学UQカレッジやスイスのチューリッヒアプライドサイエンス大学への短期留学を中心に、学生の派遣を再開しております。そのほかの地域においても、学生の皆さんが主体的に海外に渡り、挑戦する動きが見られます。

昨年度は、埼玉県社会福祉事業団によるインドネシアからのインターンシップ生の受け入れの際には、本学学生との交流企画を新たに実施しました。また、JICAと連携した講演会も開催し、学生のグローバルな視点を養う機会がさらに広がりました。

経済面での支援としては、従来からの埼玉県立大学グローバル活動助成金に加え、今年度より新たに埼玉県立大学海外留学奨励金制度を創設し、支援の充実を図っています。これらの制度により、学生の国際的な学びの機会を一層後押ししてまいります。

本学ホームページには、国際交流に関する情報を集約したページを新たに設け、情報発信の充実を図っています。国際交流はまだ再始動したばかりですが、今後も着実に歩みを進めてまいります。

学生の皆さんには、多様な価値観に触れ、自らの視野を主体的に広げる挑戦を重ねることで、これからの社会を担う力を培うことを期待しています。

はやし ひろえ
学長 林 裕栄

埼玉県立衛生短期大学での勤務を経て、1999年の開学とともに埼玉県立大学に着任。学生支援センター長や副学長兼保健医療福祉学部長を歴任し、2025年4月から現職。



留学プログラム等に参加した学生の様子 ※留学参加時の学年



クイーンズランド大学UQカレッジ (オーストラリア)
T.Tさん 看護学科3年

活動内容、活動期間

2026年3月2日から3月20日までの約3週間、クイーンズランド大学UQカレッジの短期留学に参加しました。このプログラムは、クイーンズランド大学内の語学研修施設での英語学習と、ホームステイや小旅行が組み合わされています。

活動(留学)を通して学んだこと

現地の英語教師や学生、ホストマザーとコミュニケーションを取りました。その際、うまく聞き取れないことや、自分が話したい英単語が言葉で出てこないことがあり、自分の英語力の未熟さを実感しました。しかし、たとえ自分の英語力に自信がなかったとしても、英語でコミュニケーションをとることを恐れず、積極的に英語を使用することで、徐々にコミュニケーションが取れるようになり、オーストラリアでの生活を楽しむことができました。

オーストラリアは移民が多い国であるため、多様な文化的背景をもつ人々が共存しています。私自身も、現地での生活を通して、日本とは異なる文化や価値観を経験しました。この経験から、異文化や価値観を理解し、尊重することの重要性を改めて実感しました。また、自分自身の常識にとらわれず、柔軟に対応する力を養うことができるようになったと考えています。今回の短期留学は、英語力の向上だけでなく、異文化理解や対応力を養う貴重な経験になりました。

国際交流活動を目指す後輩へのメッセージ

3週間の短い期間でしたが、現地での出会いや経験は忘れられない大切な思い出です。自分の英語力に自信がなくても恐れず積極的に話そうとすることで、楽しみながら英語力も上げることができると思います。



ずっと行ってみたかったモートン島での
シュノーケリング



友人と語り合った
ゴールドコーストのきれいな海

海外協定校への主な留学プログラム

クイーンズランド大学UQカレッジ短期留学

留学先 UQ College, The University of Queensland
期 間 約3週間

特 徴 クイーンズランド大学は世界大学ランキングでトップ100に入る大学です。UQカレッジもオーストラリア国内でトップ3の大学英語語学センターです。英語学習だけでなく、現地の大学生との交流や観光、医療機関の見学や実習など様々な内容が含まれている約3週間の本学オリジナルの留学プログラムです。宿泊は一人1世帯のホームステイです。本学学生同士で構成されたグループプログラムなので海外留学未経験者にもおすすめです。※単位認定制度あり



チューリッヒアプライドサイエンス大学 (スイス)
Y.Hさん 看護学科3年

活動内容、活動期間

2026年3月2日から3月13日までの約2週間、スイスのチューリッヒアプライドサイエンス大学で行われたEuropean Nursing Module (ENM) に参加しました。各国の看護学生との交流やグループワーク、病院見学、プレゼンテーション、レクリエーション等を通して、異文化理解や各国の医療・看護について学びました。

活動(留学)を通して学んだこと

留学を通して、国や文化が異なっているにもかかわらず、「患者を大切にしたい」という看護の根本にある思いは共通していることを学びました。一方で、医療制度や看護師の役割、多職種との連携、患者との関わり方には国ごとに特徴があり、多様な価値観や看護観に触れることができました。特に各国の学生とのグループワークやディスカッションでは、自分の考えを英語で伝える難しさを実感しましたが、完璧な語学力よりも、相手に伝えようとする姿勢や積極的に関わろうとする態度が重要であることが分かりました。

また、異なる文化的背景を持つ相手と交流する中で、価値観の違いを受け入れながら相互理解を深める姿勢の大切さを実感しました。さらに、一人で海外生活を送った経験により、主体的に行動する力や柔軟に環境へ適応する力、挑戦する姿勢も身につきました。今回の経験を、今後の看護実践や多様な対象者への支援に活かしていきたいと考えています。

国際交流活動を目指す後輩へのメッセージ

語学力に不安があっても、実際に行動することで得られる学びは大きいです。異文化に触れることで、自分の視野も広がりますし、世界中に友人ができます。海外の病院で看護体験をできる機会は少ないので、全てが新しい経験でとても楽しかったです。迷っているなら、ぜひ挑戦してほしいです。今後の看護や人生につながる貴重な経験になると思います。



プログラムの1つであるリギ山への
登山時の様子



インターナショナルディナーで
優勝した時の様子(パティと)

チューリッヒアプライドサイエンス大学短期留学

留学先 Zurich University of Applied Sciences
期 間 約2週間

特 徴 国内に3つのキャンパスを構えるスイス連邦を代表する大学の一つです。スイスは4つの公用語があり、留学プログラムでは、フランスやドイツ、スペイン等様々な国の参加者と交流を行うことができます。主に看護学等を中心に学ぶことができる約2週間の看護系の学生向けプログラムです。



無国籍集落等でのボランティア活動 (マレーシア)
M.Tさん 社会福祉子ども学科社会福祉学専攻2年

活動内容、活動期間

2025年8月24日から9月3日までの11日間、マレーシア・サバ州の無国籍集落および児童養護施設を訪問しました。現地では子どもたちとの交流や生活体験、花壇づくり、自給自足のための食糧確保の体験などを通して、教育・衛生環境や文化の違いを実感し、社会課題への理解を深めました。

活動(留学)を通して学んだこと

本活動を通して、無国籍問題は単なる貧困ではなく、法制度や社会構造に根ざした複雑な課題であることを学びました。国籍がないことで教育や就労の機会が制限され、日常的に不安定な生活を強いられる現実に触れ、福祉の「支援」とは制度・文化・社会構造を包括的に捉える必要性があることを認識しました。

また、ボランティアとは一方的に与える行為ではなく、互いに学び合う関係であることに気がつきました。限られた資源の中でも子どもたちに学びを提供する人々の姿から、人間の強さや希望、そして支え合いの重要性を実感しました。さらに、自給自足のための食糧確保の体験や生活環境の違いから、自分にとっての当たり前が通用しないことを理解しました。異なる文化や背景を持つ人々と関わる中で、多様性を受け入れ、共に生きる姿勢の大切さを学びました。

国際交流活動を目指す後輩へのメッセージ

最初はどんな場所かも分からず、衛生環境や日本との生活の違いに不安を感じていましたが、現地に行くことでしか得られない学びがありました。違いに戸惑うこともありますが、驚きや衝撃、悲しさや楽しさなど、日本では味わえない感情に出会えます。学生のうちにしかできないことに、ぜひ挑戦してみてください。



生活用品の残骸やゴミが散乱する
無国籍集落



一から全て手作業で
10日間かけて作った花壇

埼玉県立大学 海外留学奨励金

海外協定校が募集する留学プログラムへの参加を希望し、かつ、英検準1級以上等のスコアがある学部生を対象に給付するものです。給付額は、一人当たり30万円以内です(3名以内)。

※応募内容を審査し、受給(助成)対象者を決定します。
※海外留学奨励金とグローバル活動助成金は重複して受給(助成)することはできません。

埼玉県立大学 グローバル活動助成金

国の内外を問わず国際的な視野を持った学生の活動や留学等に対し助成するものです。学部生を対象として、一人当たり5万円、応募時の審査で評点合計の上位1名には5万円を加算して助成します(6名以内)。上記で紹介した3名の学生も助成対象となりました。



Profile

大学卒業後、リハビリテーション天草病院に就職。回復期リハビリテーション病棟へ配属となる。5年間の勤務を経て、space Kid's.con デイサービスにて学童期のお子さん・ご家族の支援に従事。現在は、未就学のお子さんご家族を対象とした児童発達支援にて施設長・作業療法士として勤務。

勤務先

一般社団法人CIS
space Kid's.con デイサービス

現在の仕事内容

- 児童発達支援施設の運営および職員教育
- 保育園や幼稚園、関係機関との連携
- 発達障害のあるお子さんおよびご家族への支援
- 新規事業の立ち上げ

現在、東京都中野区にあるspace Kid's.con デイサービスの児童発達支援で、作業療法士として勤務しています。日々のお子さんへの支援では、真剣な表情や満面の笑顔、何かをやり遂げた時の“ドヤ顔”など、その子らしい“いい顔”を引き出せるよう心掛けています。そして、お子さんだけでなく、ご家族や先生など周囲の方々と一緒に“いい顔”になれることを大切にしています。支援が思うようにいかず反省する日も少なくありませんが、ご家族がお子さんの成長を共有してくださったり、園の先生方と生活の変化について話し合えたりすると、大きな喜びとやりがいを感じます。

私が作業療法士として大切にしているのは「つながり」です。ご家族やお子さん、職場の同僚、共に学び合う仲間、そして家族。今の職場に転職したのも友人からの誘いが

きっかけでしたし、児童発達支援事業の立ち上げも上司からの声掛けによって始まりました。振り返ると、人生の節目にはいつも誰かとの出会いや支えがありました。さまざまな人とのつながりから学び、影響を受けながら成長してきたことを実感しています。

大学で学んだことの中でも、特に心に残っているのが「誠実であること」の大切さです。学生時代の私は、時間にルーズで授業も休みがち、卒業研究もなかなか進まず、多くの方に迷惑を掛けていました。そんな時、ゼミの先生から「患者さんには誠実でいなさい」という言葉をいただきました。当時は耳の痛い言葉でしたが、臨床に出てからはその言葉を胸に、目の前の人に誠心誠意向き合うことを大切にしています。

現在は臨床や施設運営と並行し、発達障害のあるお子さんご家族の日常生活への

参加について、仲間とともに研究にも取り組んでいます。研究では、発達障害のあるお子さんが友達と遊ぶことや習い事に参加すること、家族で出かけたり地域で安心して生活したりすることなど、日常生活における「参加」をテーマにしています。お子さんやご家族の「やってみたいこと」「できるようにしたいこと」を大切に目標設定と、その実現に向けた作業療法が、こうした参加の促進にどのようにつながるのかを明らかにしようとしています。今後は研究から得られた知見を臨床に生かし、より多くのお子さんご家族の「いい顔」に出会えるよう、少しずつ歩みを進めていきたいと思っています。

📷 PHOTO Gallery



時々登山に出掛けます。汗をかいた後に山頂で食べるカップラーメンは最高です。



近所のお散歩コースです。よく自然の中を何も考えずに歩いたり、ぼんやりしたりしてリフレッシュしています。埼玉には公園や自然がたくさんあります。



法人で行った音楽祭で演奏した時の写真です。久しぶりにステージ上で演奏しましたが、とても楽しかったです。



Profile

埼玉県立小児医療センターにて臨床検査技師として勤務し、細菌培養検査やウイルスPCR検査などの微生物検査を担当。加えて、ICT（感染対策チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）の一員として統計データの作成や院内ラウンドにも携わり、感染対策の推進に取り組んでいる。

勤務先

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター

現在の仕事内容

- 臨床検査技師として微生物検査を担当
- 一般細菌の培養検査、ウイルスのPCR検査
- ICT（感染対策チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）の業務



私は現在、埼玉県立小児医療センターの臨床検査技師として勤務しています。

主な業務は、検査部の細菌検査室にて感染症の原因となる細菌の培養検査や、ウイルスのPCR検査を行っています。また、院内のICT（感染対策チーム）やAST（抗菌薬適正使用支援チーム）にも所属しており、耐性菌や検査結果に関する統計データの作成、院内ラウンド、毎週のミーティングなどを通じて、病院全体の感染対策にも携わっています。

小児医療の現場における微生物検査は、機械的な検査のみでは完結しません。検体や症例一つひとつに対して「結果をどう解釈するか」「追加で必要な検査は何か」を自らの頭で考えて進める必要があり、手作業も多い分野です。医師から菌や結果について直接相談を受けることも多く、自分達が導き出したデータが患者さんのより良い治療やアセ

スメントに直結すること、大きなやりがいを感じています。また、年に数回、医師向けの細菌検査実習を主催するなどの啓発活動も始めました。この取り組みを機に、検査室へ足を運んでくれる医師や問い合わせが増え、チーム医療の一員として感染症治療に貢献できている喜びを実感しています。

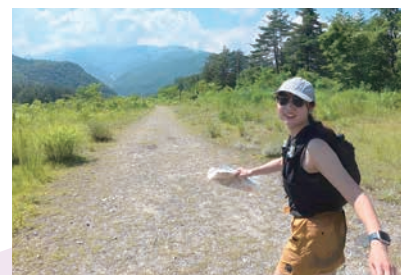
微生物検査は偶然にも大学時代の卒業研究と同じ分野です。当時は耐性菌の遺伝子相同性（MRSAのPOT）について研究していましたが、数年後に感染対策の業務として再び関わることになるとは学生時代には想像もしていませんでした。また、私は学生時代に決して出来が良かった学生ではなかったため、卒業研究や授業の実習では、たくさんの失敗を経験しました（居残りしたのも今となっては良い思い出です）。幸いにも、あの時の経験と教訓が今の業務に活きていると

感じます。

プライベートの近況としては、現在第一子を妊娠しており、まもなく出産を控えています。臨床検査技師はライフステージが変わってもキャリアを継続しやすい仕事だと感じています。育児休業中も、オンラインで参加できる勉強会などを活用して学びを止めず、復職後にしっかりと力を発揮できるよう備えたいと考えています。

菌や感染症の世界は日進月歩で、常に新しい情報へとアップデートされます。コロナの時のように未知の感染症がいつ流行するかも分かりません。激動の時代ではありますが、今後も知識を磨き続け、職場の「中間世代」として検査室をより良く盛り上げていけるよう、私自身もさらに成長していきたいです。

📷 PHOTO Gallery



登山やトレイルランニングが好きで、休日は色々な山や大会に出かけています。年間何度長野県を訪れたことか…！



キャンプも趣味の一つ。夫婦でよく行っています。写真は大好きなふもとっぱらキャンプ場。便利グッズに頼りすぎないシンプルキャンプが好きです。



細菌検査の様子。良いコロニーに出会うとテンションあがります。写真は大腸菌を培養した培地。



03

2025年度修了
保健医療福祉学研究所
博士前期課程

亀山 泉さん
KAMEYAMA Izumi

Profile

出身地の愛知県内の大学を卒業し、理学療法士免許を取得後、同県内の地域多機能型総合病院に就職。2024年4月に埼玉県立大学大学院へ入学、同県内の地域一般病院に転職。2026年3月に博士前期課程を修了し、同年4月に同大学院博士後期課程に進学。現在は、訪問看護ステーションに勤務しながら、地域在住高齢者を対象とした健康づくりに関する研究を実施。

勤務先

埼玉県県内
訪問看護ステーション

現在の仕事内容

- 訪問看護ステーションにおける理学療法業務
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護における理学療法業務

私は大学卒業後、地元愛知県の地域多機能型総合病院に就職し、主に急性期、亜急性期における患者様を対象としたリハビリテーションに従事してきました。日々あらゆる症例を担当させていただく中で、特に高齢者では、ある疾病を契機に様々な疾患を併存することや、二次障害を発生するリスクが高く、要介護や寝たきり、さらには入退院を繰り返す状態となるケースが多く見受けられ、心身ともに苦痛を強いられる方を目の当たりにしてきました。そこで、目の前の患者様の回復に携わるのみではなく、あらゆる疾病で苦しむ方々を少しでも「減らしたい」、「支えたい」と思うようになりました。

そして、一次予防を目的としたヘルスプロモーションに関心をもち、それに関わる研究に取り組むべく埼玉県立大学大学院に入学しました。大学院では、学識豊かで多彩な先生

方や充実した施設環境のもと、保健医療福祉分野の学びを深めつつ、研究遂行のための手法の理解および専門性を追究し、大変有意義な時間を過ごすことができています。

現在は、入院・外来患者様に対するリハビリテーションの経験と、予防に関わる研究活動を経て、実生活場面や重症化・再発予防のリハビリテーションに関心をもち、サービス付き高齢者向け住宅、一般在宅居住の訪問リハビリテーション利用者様を対象とした理学療法に携わっています。多種多様な疾患、生活・社会背景を有する利用者様に対し、基本的なリハビリテーションの考え方は同じであるものの、より幅広い視野で関わることの重要性を感じると同時に、難しさを痛感しています。同じリハビリテーション専門職や他職種の情報、利用者様との関わり方を参考に思考プロセスと経験を積み重ねつつ、大学院での学び

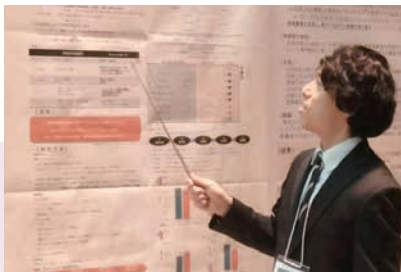
の活用も模索しているところです。研究は、博士前期課程における課題を踏まえ、地域在住高齢者を対象に身体活動・運動領域に立脚した、より発展的で新規性のある健康づくりプログラムの創出・実行を検討しています。

今後も、仕事と学術活動を通じて、一人でも多くの方々が住み慣れた地域・場で自分らしく生活できる支援を追求したいと考えています。そのために、人と人とのつながり・対話を大切にし、一人ひとりの意見やニーズ、特性に寄り添い支えることができるよう、日々精進していきたいと思っています。

📷 PHOTO Gallery



研究活動における参加者の方々とワークショップの様子です。人と人の対話やつながりの大切さを感じます。



学術大会に参加することで、自身の研究への様々なご意見や関連分野の最新の知見を得ることができ、大変良い刺激になっています！



時々、青空と緑の見える開放的な空間で大好きなコーヒーを飲みながら、のんびりすることでリフレッシュしています。

04

2022年度修了
保健医療福祉学研究所
博士後期課程

渡邊 恵さん
WATANABE Megumi

Profile

看護専門学校の専任教員時代に埼玉県立大学修士課程（当時）に入学。成人看護学領域でのTAを経験しながら修士論文を執筆。修了後2013年4月より神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科に所属。コロナ禍のオンライン審査会を経て博士後期課程を修了。現在の専門は基礎看護学。

勤務先

神奈川県立保健福祉大学

現在の仕事内容

- 基礎看護学に関する講義・演習・実習指導
- 大学院生ゼミの運営、研究支援
- 大学運営と各種委員会活動
- 研修会の開催や出張講義など社会貢献活動



2013年に大学教員として勤務を始めてから、気がつけば13年が経ちました。臨床で看護師として働いていた期間をはるかに超え、今では研究室に通う日々がすっかり日常です。病気で父を早くに亡くしたことから母に勧められ、何となく選んだ看護の道でしたが、歳を重ねるほどにその奥深さと面白さを実感しています。

看護を学び始めた頃から、教育者の教授活動や学生に向き合う姿勢が学生の学習意欲に影響を与えることに関心があり、いつか教育の仕事に携わりたいと考えていました。看護教員として働き始めた当初は、自分の看護観や教育観に頼りながらがむしゃらに働いていましたが、多様化する学生の支援や継続教育の難しさに直面し、看護基礎教育のあり方を探求したいと思い、大学院に進学しました。

博士前期・後期課程を通して、看護教員として日々抱いていた疑問を研究テーマとして深めることができ、非常に充実した時間を過ごしました。医療の高度化・複雑化が進み、今の時代を生きる学生らは、私たちが学んでいた頃よりはるかに高い看護実践能力を求められています。しかし、臨床実習で体験できる内容には限りがあり、臨床と教育のギャップは依然として大きいです。どのような教育が学生の実践力を高めるのか、エビデンスを構築するための研究はとても刺激的で、その意義を感じながら取り組むことができました。

大学院での学びは、現在の教育・研究活動の原動力となっています。現在は基礎看護学領域に所属していますが、コミュニケーション能力やヘルスアセスメント能力に加え、臨床判断や倫理的感受性の育成など、今の看護

学生に求められる能力を低学年からいかにして育てるかを日々悩みながら楽しく教育をしています。また、看護師には、多職種と連携・協働する能力が不可欠です。互いの専門性を理解し、協働して患者さんに質の高いサービスを提供しようとする姿勢は低学年から育てる必要があります。基礎看護学を学ぶ1・2年次生にも、折に触れてIPW（専門職連携）の精神を伝えていますが、埼玉県立大学での学びが今の私の教育活動を後押ししてくれているからだ実感しています。

今では、「看護技術」「看護教育」「多職種連携」が私の研究キーワードです。学生の実践力を高めるための研究はやりがいがあり、その成果を教育に還元できることも楽しみの一つとなっています。

📷 PHOTO Gallery



どんなに忙しくても自分へのご褒美は欠かせません。終電がなくなるまで飲み明かす楽しい仲間も増えました。



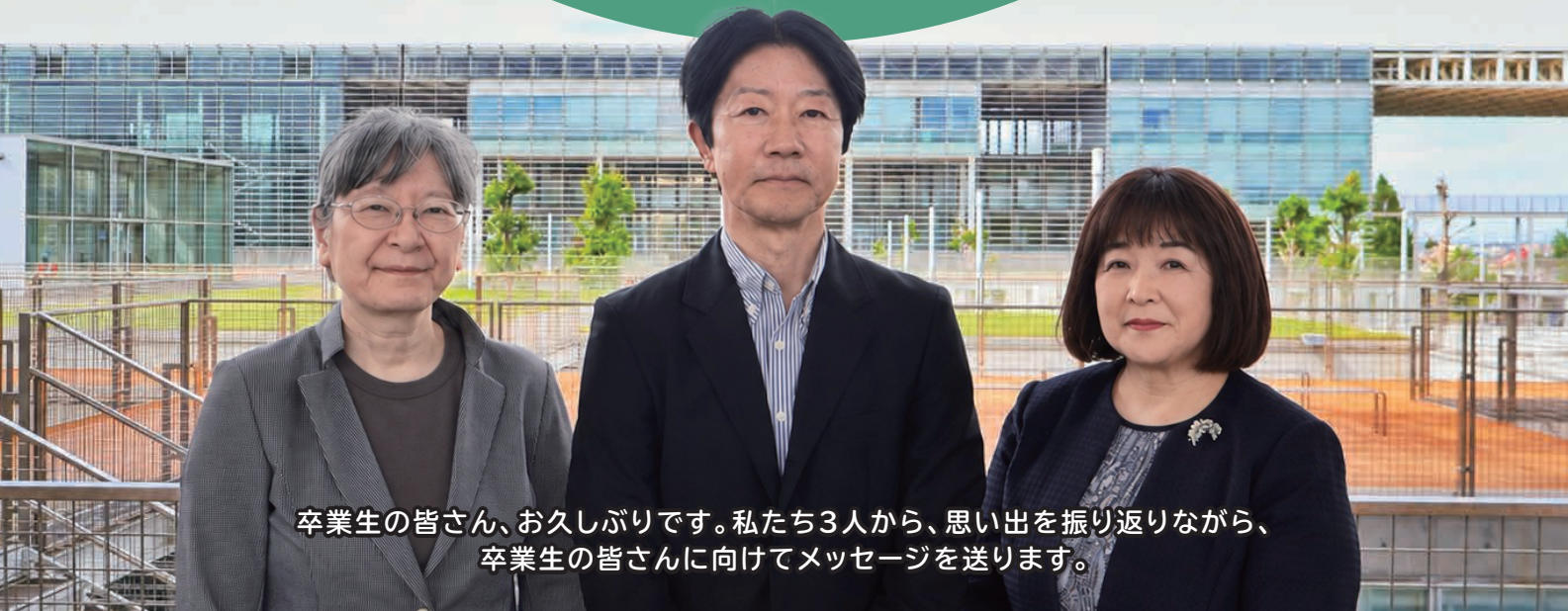
論文執筆に専念する「宿泊型ライティング・リトリート研修」のひとつ。14名の有志とマグロのオブジェの前で記念撮影。



柴犬と同居を始めて20年。看取りも経験しました。それでも柴犬をお迎えするほど大好きです。

～懐かしの先生から～

卒業生・修了生の 皆さまへのメッセージ



卒業生の皆さん、お久しぶりです。私たち3人から、思い出を振り返りながら、卒業生の皆さんに向けてメッセージを送ります。

教員生活の思い出

上原 教職課程に関わってきた中で、特に印象深いのは、学校現場での実践的な学びです。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校での活動では、バペットを活用した交流や歯科保健指導の教材を作成し、学生の皆さんが実際の授業を担当する貴重な経験もさせていただきました。また、2025年度からは児童生徒とともに、地域の健康課題の解決に向けた活動として、地域学校保健委員会を開催しています。学生の皆さんがこうした児童生徒との学びや経験、そして仲間同士の支え合いの中で、真摯に取り組んでいる姿に多くの感動をいただいています。

村井 微生物学実習では、未知検体として何が入っているかわからない検体を配付し、学生には4日間ドキドキしながら同定に取り組んでもらっています。実は私たち教員も、誤った菌を入れていないかと緊張しながら見守っています。実習の最後に学生が正しい結果を報告してくれると、ようやく安心することができました。

植野 講義は学生の皆さんと初めて会う機会ではありますが、講義室ではやや学生との距離を感じることがあります。一方、実習室では実際のクリニックに近い環境で学ぶことができるため、学生が講義のときはまた違う表情を見せてくれるのが印象的です。さらに、実習中は1対1で指導を行う場面もあり、学生一人ひとりをより深く知ることができるた

め、実習の時間は特に印象に残っています。また、IPE・IPW実習では他学科・他専攻の学生と関わることができ、他分野の学生がどのような内容を知り、どのような考え方をしているのかを知る機会となりました。自分にとっても大変勉強になり、貴重な経験となりました。

大学の「これ」を見に来て！

上原 埼玉県立大学のホームページでは、現在の大学の様子をご覧いただけます。健康づくりに役立つ講座や、専門職向けのキャリアアップ研修、卒業生向けの講習会なども案内しています。また、毎年10月の清透祭に合わせて、各学科専攻や教職課程のホームカミングデーも開催しておりますので、是非お越しください。

村井 お勤めスポットは、研究室裏の広場です。夏の晴れた日には、地平線に夕日が沈んでいく様子を、時間を忘れて眺めることができます。あいにくの雨の日に大学を訪問された際には、ぜひ廊下の掲示物を見て回ってください。各学科・専攻で学んでいる内容や、学生・大学院生が学外の学会で発表したポスターが掲示されており、今の学生たちの学びを知ることができます。

植野 2階に広がる「ウッドデッキ」です。私自身、これまで他の国内外の大学に在籍した経験がありますが、ウッドデッキのある大学は見ることがなく、本学の校舎ともよく調和していて、とてもお洒落だと思います。また、このウッドデッキには行き止まりに

なっている箇所もあるため、北棟から南棟へ移動する際には、「どのルートを通れば目的地に着くのか」を考えながら歩くのも一つの楽しみです。大学に来る機会があれば、ぜひ正門入口から続くウッドデッキを歩いてみてください。

卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

上原 子どもたちの健康を支えながら日々活躍のことと思います。学生時代の学びや仲間とのつながりは、今も皆さんの支えとなっていることでしょう。時に迷うことがあっても、これまでの経験が次の一歩を導いてくれるはず。埼玉県立大学は皆さんがいつでも帰ってこられる場所ですので、元気な顔を見せに来てくれることを楽しみにしています。これからご自身の心と体を大切に、無理のない歩みで、皆さんらしく子どもたちに寄り添ってってください。

村井 学会などで私たち教員を見かけた際には、ぜひ気軽に声がけいただき、近況をお聞かせください。皆さんから何うお話は講義の題材となり、在学生への励みにもつながります。どうぞよろしく願いいたします。

植野 歯科の世界は非常に狭く、セミナーや学会などで卒業生に再会する機会が意外と多くあります。その際には、ぜひ気軽に声をかけてほしいと思います。また、清透祭などで大学に遊びに来る機会があれば、私に限らず教員のところへ近況を話しに来てくれると、とても嬉しいです。

今回
お話を伺った
先生方



メッセージは
動画でも見られます

<https://www.spu.ac.jp/life/message.html>



村井 美代 教授

健康開発学科検査技術科学専攻/
研究開発センター副センター長
1999年着任。専門は微生物学



植野 正之 教授

健康開発学科口腔保健科学専攻/学科長
2018年着任。
専門は口腔衛生学・予防歯科学



上原 美子 教授

共通教育科/地域連携センター長
2013年着任。
専門は養護教育学、教育福祉学

県大生の いま

KENDAI SEI NO IMA

講義や実習、学内イベントなどに積極的に取り組み、
日々新しい知識や経験を積みながら
充実した楽しい大学生活を送っています。
また、友人や先輩・後輩、先生方との交流を通じて、
周囲との信頼関係も築いています。

学生 生活編

清透祭 (2025/10/25,26)

多くの来場者の賑わいの声が会場全体を包み、
2日間とも大盛況だった清透祭。
皆さんと楽しい時間を共有することが出来ました。

2026年度の清透祭は
10月24日&25日開催！



スポーツ フェスティバル (2025/11/8,9)

学生自治会が企画したバスケットボールやバレーボール、フットサルなどのスポーツ活動を通じて、学生同士の交流もさらに広がりました。



キッチンカー誘致 (2026/1/19~30)

日替わりで来るキッチンカーを楽しみに、授業の合間や昼食時に友達同士で誘い合い、多くの学生が利用していました。

授業編

講義や演習、グループワークを通して、
専門的な知識や技術の習得に加え、
人と向き合う姿勢やつながりについても学んでいます。



運動学実習での運動負荷試験の様子



幼児と造形表現の授業にて制作中の様子



学外の方や卒業生の皆さまにも気軽に参加いただける研修や学術集会を開催しています。
今回は、2024年度に開設された専門職連携教育研修センター(IPEセンター)が実施する研修事業と、
本学の10周年を機に2009年度に発足した埼玉県立大学保健医療福祉科学学会(SPU学会)が
開催する学術集会についてご紹介します。

「専門職連携を学ぶ講座」のご紹介

埼玉県立大学では、多職種連携に必要な知識や技能の習得のほか、グループワーク等を通して多職種連携の実践を行う「専門職連携を学ぶ講座」を開催しています。
卒業生はもちろん、専門職としてのキャリアアップや新たな知見の習得、多職種・多機関で協働するためのチームづくり、ファシリテーション、事例検討を通じた実践的スキルの向上を目指す方など、職種や勤務年数を問わず歓迎します。



講座は毎年度ブラッシュアップして開催しています。興味がある方はこちらから詳細をチェックしてください！

<https://www.spu.ac.jp/society/tabid399.html>

2026年度専門職連携を学ぶ講座

- チーム力を高める実践講座
現場で成果を出すコミュニケーション&リフレクション
- 多職種を動かし、現場を変える「チームの舵取り」養成講座
～現場を動かし“納得”に変える実践ファシリテーション～
- 専門職連携の基盤『ヒューマンケア』を探究する
～分野も立場もこえて～
- IPWを促進するF-SOAIPリーダー養成研修
～ミクロ・メゾ・マクロレベルでの好循環とエコシステム～
- 専門職連携で学ぶ事例検討
～複雑化・複合化した支援ニーズのある事例から考える本人中心の意思決定～
- 専門職連携チームのアントレプレナーシップ概論 ***2026年12月6日開催**
***申込期間は2026年11月24日までです。**
その他「2026年度専門職連携を学ぶ講座」の受付は終了しています。



「専門職連携を学ぶ講座」の様子

受講者からは、「とても楽しく学ぶことができた」「様々な職種の方と意見交換や課題共有ができてとても有意義な研修だった」などの感想が寄せられました。



SPU学会のご紹介

SPU学会は、保健医療福祉分野の発展を目的に、学術的・学際的な研鑽の場を提供するとともに、サービスの質向上と会員の継続的なキャリア形成を支援することを目指して2010年に発足しました。
機関誌の発行や年次学術集会の開催、各種賞の贈呈を通じて、国内外および地域産学官との連携を深め、実践と研究の発展に寄与します。

埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 第17回学術集会のご案内

現場で活躍する卒業生の話を直接聞ける機会になっています。重層的支援について皆で考えましょう。ぜひご参加ください。

- テーマ 重層的支援体制整備事業の現状と課題
- 日時 2026年11月14日(土) 参加申込・詳細は本学ホームページでご確認ください
<https://www.spu.ac.jp/about/society/#cont04>
- 会場 埼玉県立大学(対面開催)



たなか しげる
理事長 田中 滋

公立大学法人埼玉県立大学理事長/慶應義塾大学名誉教授
現在務める主な公職は、医療介護総合確保促進会議座長、
協会けんぽ運営委員長など

2026年4月、田中滋理事長が本学理事長に再任されました。
任期中に迎える本学開学30周年とその先を見据えた本学の展望についてご寄稿いただきました。

理事長コラム 進化を続ける埼玉県立大学

埼玉県立大学は2029年3月末をもって開学以来満30年の日を迎えます。翌4月に31年目に入っても、私たち教職員は、埼玉県内外の保健医療福祉分野を始め、社会に役立つ学生や院生を育て、日本のみならず世界に向けた研究を続け、地域貢献に努めているはずですが、
さらにその先、2040年に向かって、日本における85歳以上人口さらには100歳以上人口増加が継続します。保健医療福祉関連を含む地域社会で発生する生活ニーズは、量的拡大よりも、内容が大きく変わっていくとの認識が欠かせません。他方、少子化脱却を目指し、子供とその親への経済的支援と社会的支援の強化も不可欠です。
本学は、このように変貌していく社会のニーズに対応できるよう、専門知識や技術の習得という必要条件を満たすだけではなく、人に寄り添う専門性と人間性をもつ人材を育成してきましたし、これからも育成します。
本学の学生・院生は、AIの進展があっても、それには代替されない、社会に不可欠の存在であり続けるでしょう。そのために、在学中も卒業後も学べる場としての埼玉県立大学を、より進化させていきます。

同窓会からのお知らせ

会長就任のご挨拶



埼玉県立大学同窓会 会長
かねこ むつみ
金子 睦 (社会福祉学科6期卒業)

つながりを、これからの力に。ゆるやかに、あたたかく、つながる同窓会。

このたび、埼玉県立大学同窓会会長を務めさせていただくことになりました。日頃より同窓会を支えてくださっている卒業生の皆さま、県大関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

同窓会というと、一部の人だけが関わるものという印象を持たれるかもしれませんが、本来は、卒業生同士や母校と気軽につながることができる身近な存在であるべきだと考えています。仕事や家庭、住む場所など、それぞれの状況が異なるからこそ、これからの同窓会は、それぞれの形でゆるやかにつながる場を目指していきます。

これまでの歩みを大切にしながら、新しい取り組みにも挑戦していきます。その一つとして、情報発信を充実させ、可視化することで同窓会の活動や県大の今を、より分かりやすくお届けしていきます。卒業生の皆さまに、「県大や同窓会をもっと身近に感じていただける機会」を増やしていきたいと考えています。

また、同窓会との関わり方はさまざまです。イベントへの参加だけでなく、ホームページを見ることや近況を共有すること、後輩を応援することも大切なつながりです。就職活動や国家試験に挑戦する在学生を応援する取り組みにも力を入れ、卒業生と在学生をつなぐ循環を育んでいきたいと思っています。

同窓会は、卒業生と母校、そして次の世代をつなぐ場です。「久しぶりに県大のことを見てみよう」「少しでも協力してみよう」と思っていたような同窓会を皆さまと一緒につくっていききたいと思います。つながりを、これからの力に。

同窓会活動に、ぜひご期待ください。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



現在実施している事業

● 大学との共催イベントの実施

ホームカミングデーを中心としたイベントを大学と共催し、卒業生・在学生との交流を通して、学内外の連携と統合を図る。

● 国家試験受験学生への応援激励

応援グッズを配付して、国家試験受験を応援。

● 活動促進事業への補助

同窓会員が主催し、同窓生の相互交流・親睦を深めることを目的とする活動等への補助を行うことにより、その活性化を図る。

● 大学イベントへの参加【入学式・清透祭(模擬店出店)・卒業式】

様々な手段、方法により、同窓会組織・活動の周知と認知度向上を図る。

● SNSでの県大の今を発信

SNS(X・Instagram・Facebook)への定期的・継続的な投稿。



ホーム
カミングデー



清透祭



国試応援
グッズ



Qまずは、のぞいてみよう



X: https://x.com/spu_dosokai
Instagram: https://www.instagram.com/spu_dosokai/
Facebook: <https://www.facebook.com/spudousokai/>
埼玉県立大学同窓会: <https://www.spu.ac.jp/about/supporter/>



連絡先・問い合わせ先・活動に興味のある方はこちら
✉ dosokai@spu.ac.jp

卒業生向けの支援

卒業後の就職支援

本学では卒業後も就職相談や求人情報の提供を行っています。
キャリアカウンセラーへの相談は卒業後3年間利用可能で、履歴書添削や面接練習などに対応しています。卒業学科の教員への相談も可能であり、転職成功の嬉しい報告も届いています。
求人情報は「キャリアタスUC」で閲覧可能です。

詳細は就職支援担当までお問合わせください。
✉ syusyoku@spu.ac.jp

同窓会活動の補助費

埼玉県立大学同窓会では、同窓会員の活動の活性化を目的に、活動への補助費(上限2万円)を交付しています。例として学科・サークルでの同窓会やホームカミングデー、退職教員記念講演等に利用されています。申請方法等の詳細は大学ホームページをご確認ください。

卒業生の集まり

